

福祉文教委員会先進地視察報告書

日 時	平成28年5月10日(火)午後1時30分から午後3時30分まで
視 察 先	栃木県那須塩原市
視 察 項 目	英語教育の推進について
視 察 者	委員 長 伊藤正治 副委員 長 古俣泰浩 委 員 川脇裕之、泉 清秀、中平 猛、江端菊和、荻田信孝
視 察 内 容	<p>那須塩原市では学校教育の柱を「人づくり教育」として、小中学校連携推進事業を展開し28年度から全市小中一貫教育を開始した。その一環として国際性に富み、自分の考えを主体的に英語で伝えることができる子どもの育成を目指す教育に取り組んでいる。</p> <p>1 英語教育カリキュラムについて</p> <p>学校、学年ごとにより指導内容、方法等の連続性・系統性の欠如や小学校低学年における授業時数の格差などが課題であったことから、英語教育推進委員会を創設し、カリキュラムを作成した。これに基づき授業を行うことにより均一な指導、教員の授業準備時間の削減、小中一貫教育を意識した指導が展開されるようになったとのことであった。</p> <p>2 ALT（外国人指導助手）の常駐配置について</p> <p>ALTとのチーム・ティーチング（以下、TT）による授業時数を確保するとともに、児童生徒が日常的に英語を使ってコミュニケーションを図ることを狙い、平成26年7月から、市内全小中学校にALTを常駐配備している。ALTとのTTによる授業がふえたことで、小学校の教員が英語教育に積極的に取り組むようになったこと、英語を使う活動を意識した授業改革に舵を切る中学校の教員がふえてきているとのことであった。また、ALTとのかかわりにより、児童生徒の英語によるコミュニケーション力の向上がみられたことなどから、ALT配置に対する児童生徒・保護者からの評価が上がっているとのことであった。</p>
所 感	<p>那須塩原市は、人づくり教育の実現を目指すために、小中一貫教育を平成26年度から始めた。その中で英語によるコミュニケーション教育の充実を図るため、英語教育の推進に力を入れている。独自の小中一貫英語教育カリキュラムを開発し、小中17校全てにALT34人を配置し、9年間の流れを意識した指導に努めている。</p> <p>小中一貫英語教育カリキュラムは指導内容や方法等の連続性や系統性を目途とした非常に優れた出来栄であると思う。また、ALTの全校常駐配置も児童生徒の使える英語の習得に向けての効果的なアプローチであるとともに、子どもたちはもとより、教員・地域の方々にもよい波及効果をもたらしているとのことであった。</p> <p>また、これらの事業は定住促進施策にもつながっているとのことであり、本市においても教育環境のより一層の充実を図ることが市のPRにもつながると感じた。</p> <p>今後の課題としては、中学校教員の意識改革と英語教育カリキュラム活用の促進があるようだが、本市においても未来を見据えた特色ある人材教育を行うために、市を上げて取り組むこの事業は大変参考になった。</p>

日 時	平成28年5月11日(水)午前9時30分から午前11時30分まで
視 察 先	栃木県大田原市
視 察 項 目	おおたわらウォーキング推進事業について
視 察 者	委員 長 伊藤正治 副委員長 古俣泰浩 委 員 川脇裕之、泉 清秀、中平 猛、江端菊和、荻田信孝、
視 察 内 容	<p>おおたわらウォーキング推進事業は、スマートフォンを使用し「歩き旅」を楽しみながら運動習慣を身につけるもので、歩くことを日常生活に取り入れ、1日8,000歩、年間300万歩を目標にウォーキングすることにより、生活習慣病の予防に役立てるとともに、市民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現を目指すことを目的として平成25年5月にスタートした。</p> <p>スマートフォンで大田原市専用のアプリケーションを取得することによって歩数を計測管理し、歩数に応じて市内の名所旧跡等がスマートフォン上に表示され、仮想のウォーキングコースを利用することができるもので市内の名所をめぐる後に、奥の細道をめぐる仮想の旅を楽しみながら300万歩を目指すものとなっている。画面上で累積歩数を始め、日にち、週、月ごとの歩数や歩数ランキング情報、各種イベント、健康に関する様々な情報も提供している。</p> <p>複数の自治体が参加しているためか利用者が減少していることが課題となっていることや、現在実施している「健幸ポイント事業」が28年度で終了となるため、後継の事業を検討する必要がある「ウォーキング推進事業」を含めた形で実施できないか検討しているとのことであった。</p>
所 感	<p>おおたわらウォーキング推進事業は、スマートフォン用の歩数計アプリを活用してウォーキングを楽しむ事業である。高齢化や生活習慣病の増加による医療費増を抑制する点からもウォーキングが習慣化されることは有効な手段である。ゲーム感覚で気軽に参加できるため、若い世代をターゲットに始めたものである。ウォーキングというと高齢者というイメージがあるが、同市では若い人の将来の健康増進につながると考えているとのことであった。</p> <p>ウォーキングマップの作成だけでなく、歩き方の講座などの健康づくりイベントに積極的に取り組んでいることは市民の運動習慣の定着を図る上で参考になった。</p> <p>本市においては、各地区で設立が進められている総合型地域スポーツクラブやラジオ体操を活用する絆づくり隊等が活動しているが、スマートフォンの活用という点は、本市においても新たなツールであると感じた。</p> <p>健康長寿に向けて、平均寿命と健康寿命の差を縮めるためにもウォーキングなどの生活習慣病予防策に一人でも多くの市民が関心を持ち、参加できる環境の整備を学ぶことができた有意義な視察であった。</p>